

「コボちゃん作文」の書き方

「コボちゃん作文」は4コママンガを読み、その話の筋を書くだけではなく、マンガに書かれていないことも言語化する作文だ。

次の3点の力を養うことをねらいとする。

- ①文章力（簡潔に的確に書く。文章構成を工夫して書く。時間内に書く。）
- ②洞察力（マンガに書かれていない「おもしろさ」を洞察する。）
- ③表現力（正しく原稿用紙を使う。文字を丁寧に書く。漢字を適切に使う。）

書き方

詳しく細かく書くのではなく、どんなことが描かれてあるのかを書く。

目安はだいたい160～190字以内で書く。あまり長くないこと。

はじめの1文はできるだけ短く単純に終わらせる。

直接話を間接話法で書く。言った言葉をそのまま書くのではなく、言った内容をまとめて書く。

1文に1つのこと。だらだらと文を長くさせない。

マンガの表情から心情を読みとって理由や原因と結びつけて説明する。

行動や表情の変化があったら、その理由や原因を「実は」「それは」「なぜなら」などの言葉を使い説明する。

落ちやおもしろさを説明する。

書き上げたら必ず読み直し、推敲する。誤字

・脱字や、書き忘れがあったら、原稿用紙の推敲行に書き入れる。

できれば、マンガを一度読んで、頭に入れてからマンガを見ないで書いてみよう。

小学校の図工の時間。先生は粘土の塊を前にして、これは猫には見えないからどのように細工すればよいかと問いかけた。

子どもたちは、ヒゲを付けたりしっぽを付けたりすればよいと提案した。

校長先生は廊下でその様子を見て授業内容に感心していた。しかし図工の先生の言葉を聞いてずっこけてしまった。なぜなら、図工の先生は「ネコ」というタイトルを付ければ簡単だと種明かしをしたからだ。（185字）